

「不時着水」一転「墜落」 米側の説明うのみに

オスプレイ墜落

29日の米軍横田基地（東京都）所属の特殊作戦機CV-22オスプレイの墜落で、日本政府は米側の説明をうのみにし、事故の安全確認も米軍任せといふ米国言いなりの姿勢をあらわにしました。

その最たるもののが、今回の事故を「不時着水」から一転して「墜落」と言い換えた問題です。29日夜の会見で、富沢博行防衛副大臣は、事故状況が分からぬとする一方、「パイロットが最後まで頑張ったと米側から説明を受けたので、墜落ではなく不時着水だ」と強弁。しかし、翌30日の参院外交防衛委員会で、木

安全確認も米軍任せ

「不時着水」という表現をめぐっては、2016年に起きた沖縄県名護市でのMV-22オスプレイ墜落事故でも、政府は「不時着水」と発表。この時も「機体はパイロットのコントロール下にあった」という米側の説明をうのみにし、「不時着水」という言葉を使い続けました。今回の事故では、機体はバラバラとなつてぶら下がる状態が確認されていました。

これまでのオスプレイの墜落事故でも、日本政府は米側に原因究明を求めて、形ばかりの「安全確認」をし、飛行を再開させることが繰り返していました。

ます。いつまででも「不時着水」という説明は不可能です。

原因究明求めず

原因究明をめぐりても政府の主張性のなさが露呈しました。「不時着水」と述べました。その理由について「米側から本日になって墜落と説明を受けた」。

原因究明を米側に求めよ

スプレイ墜落事故では、原因不明がさまれないまま「機体に問題はない」という米側の方的な説明をうのみにして、事故のわずか6日後に飛行を再開。日本政府も安全が確認されたとして追認しました。

最近も同様の事態がありました。

30日の参院外交防衛委員会で日本共産党の山添拓議員は、「原因究明を米側に求めよ」と何度も迫りましたが、木原防衛相は「安全確認されたから飛行するよう要請した」と述べるのみで原因究明につて明言しませんでした。今回

の墜落は、陸地からわずか1km先の海上で起こり、住民を巻き込む大惨事となる恐れがあつたにもかかわらず、原因究明に消極的な姿勢を示しました。

上自衛隊はMV-22オスプレイの飛行を見合わせました。しかし、「800時間を超える部品を交換すれば事故は防げると」の米側の説明のみを根拠に、独自に検証しないまま、翌8月に飛行を再開しました。

日本政府も責任

16年の沖縄県名護市でのオスプレイ墜落事故では、原因不明がさまれないまま「機体に問題はない」という米側の方的な説明をうのみにして、事故のわずか6日後に飛行を再開。日本政府も安全が確認されたとして追認しました。

した。

これまでのオスプレイの墜落事故でも、日本政府は米側に原因究明を求めて、形ばかりの「安全確認」をし、飛行を再開させることが繰り返されました。日本政府も責任を免れました。

せん。
(斎藤和紹)